

教育懇談会の概要

【日 時】 令和8年7月13日（月）

【訪 問 先】 村山教育事務所301会議室（13:30～15:00）

（教育委員の主な発言内容）

- ・学習アプリの導入は個別最適な学びを可能とし、また、教職員の負担軽減にもつながり効果的であると感じるが、どれくらい生徒が活用しているのかが見えてこない。使用量に対し学力がこれくらい上がっているというデータがあると良いのではないか。教職員におまかせするのではなく、家庭での見守りも重要であることから、保護者へのデータ提示も必要ではないか。また、ICT支援員を活用することで、教職員の負担軽減も必要と考える。ただ、ICT活用による学力向上の効果は期待されるものの、その一方で、生徒が建物内で過ごす時間の増加により、自然の中で生きたものと直接触れ合う体験の機会が減少することが懸念される。実際に見たり触れたりする体験も学習においては必要であると考え。（和田委員）
- ・山形県の全国学力調査の結果を見ると、特に算数（数学）が全国平均を下回っている。東京の学校（小学校～高校）では、前倒しで学習しているという話を聞く。また、日本の教育はレベルが高かったが、後進国と言われたマレーシアやシンガポール等がICT教育等に力を入れたりすることで日本を追い越しているのも、もっと日本が頑張らなければならないと、全国で学習に力を入れている。山形県も頑張っているが、それ以上にまわりも頑張っているため、差が広がってしまうのだろう。また、中国や韓国では体験型の理科実験を多く行うようになったことで興味を持つ子が増え、学力が上がったという話も聞く。学力を伸ばすためには学習意欲を持たせることが大切と考える。（小関委員）
- ・AIドリルの活用は、過去の自分とは比較できるが、他者とは比較できない。以前は、自学ノートを取組状況をシールで可視化し、友達と比較することで、「もっと頑張ろう」という意欲につながっていた。また、長い休

みにはプリントの宿題が出されるため、やっているかどうかを親が容易に確認することができた。「もっとできるのでは」と伴走する取組みが必要ではないか。インプット後のアウトプットは紙での学習が効果的と感じるため、うまく使い分けていくことが必要ではないかと感じた。(工藤委員)